



松戸市における地域ケア会議について

令和5年度第2回地域包括ケア事例研究会
2023年11月27日

松戸市福祉長寿部 地域包括ケア推進課
守田 加寿子



<https://www.city.matsudo.chiba.jp/matsudodeikiiki/mokuteki/sonota/chiikikeakaigi.html>

松戸市（千葉県）とは？



【位置】

都心から20km圏に位置。

千葉県の東葛地域（北西部）の一翼に位置

【名物】

梨（二十世紀梨の発祥地）

ねぎ（全国1位、矢切ねぎ）

市役所すぐやる課（全国初）

【高齢者の状況】

令和5.3.31現在

総人口：497,342人

高齢者人口：128,913人

後期高齢者人口：71,758人

高齢化率：25.9%

後期高齢者割合：14.1%

要介護・要支援認定者数：22,419人（令和2年度）

地域包括支援センター 15か所（委託）

基幹型地域包括支援センター 1か所（直営）



松戸市 地域ケア会議の機能と構造

1.個別課題
解決機能

2.ネットワーク
構築機能

3.地域課題
発見機能

4.地域づくり・
資源開発機能

5.政策形成
機能

地域包括ケア
システム実現
による住民の
安心・安全と
QOLの向上

地域レベルの会議

地域個別ケア会議 (地域レベル)

- ◎役割：個別事例の課題の解決
専門職への職務を通じた
トレーニング (OJT)
- ◎メンバー：個別事例に関係する
幅広い地域の専門職等
(医療・介護関係者以外
も含む)
地域包括支援センター
(事務局)
- ◎開催回数：年4～6回程度

自立支援型個別ケア会議 (地域レベル)

- ◎役割：自立支援に資するケア
マネジメントの検討
- ◎メンバー：地域包括支援センター
指定介護予防支援事業所
リハビリ専門職等
- ◎開催回数：令和5年度は休止

地域包括ケア推進会議 (地域レベル)

- ◎役割：地域レベルの課題の解決
 - ・個別事例の検討から把握された課題
 - ・地域の専門職・関係者が把握した課題
- ◎メンバー：地域の専門職・関係者
地域包括支援センター (事務局)
- ◎開催回数：年2回程度

検討結果を個別支援に
フィードバック

市レベルの会議

市地域ケア会議 (市レベル)

- ◎役割：市レベルの課題の解決
 - ・地域レベルでは解決できない課題
 - ・市全体で対応すべき課題
- ◎メンバー：関係団体・機関の代表等
- ◎事務局：松戸市(基幹型地域包括
支援センター)
- ◎開催回数：年2回程度

地域ケア会議では高齢者個人に
対する支援の充実と、それを支
える社会基盤の整備を進めてい
きます



地域レベルの会議における主な議論のまとめ

整理された市レベルの課題と解決に向けた議論

認知症、介護予防、多分野・地域共生などの12テーマに整理

地域ケア会議の実施スケジュール

市レベルの課題の
解決

**市地域ケア
会議**

地域レベルの課題
の解決

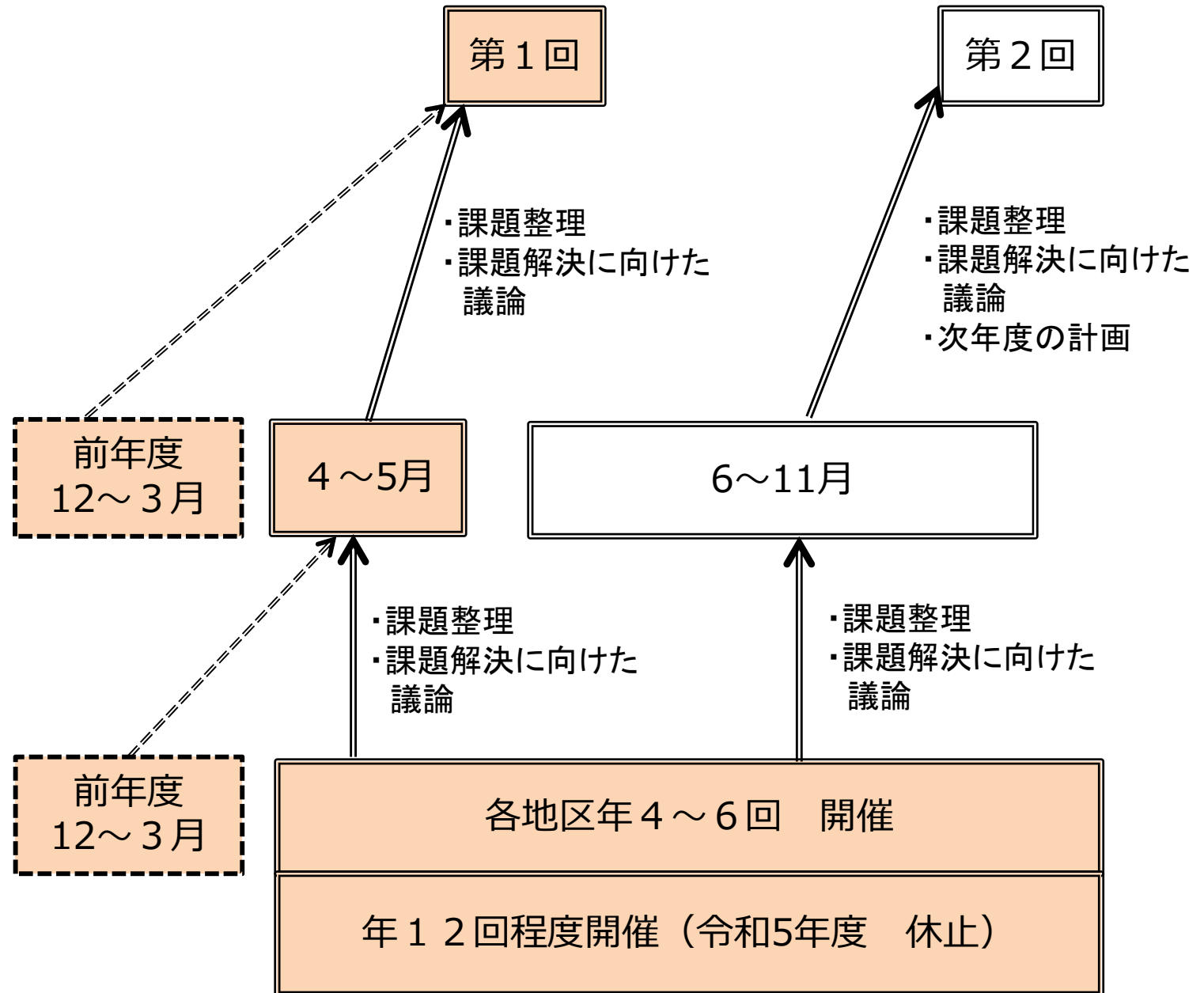
**地域包括ケア
推進会議**

個別事例の課題の解決
専門職に対するOJT

**地域個別ケア
会議**

**自立支援型
個別ケア会議**

自立支援に資するケアマ
ネジメントの検討



地域包括ケア推進会議（地域レベル会議）の工夫 1

松戸市地域ケア会議運営マニュアルより

○地域包括ケア推進会議では、
「個別事例の検討から把握された課題」や、「地域の専門職・関係者が把握した課題」から
⇒地域レベルの課題の解決を行う

出席者の工夫 1

出席者は、地域内の医療、介護、福祉、地域、警察・消防関係等の関係団体・機関の地区担当・代表・実務者等の参加をお願いしている。

こうしたメンバーが参加することにより、各分野の知見を活かせるとともに、関係団体を巻き込んだ取組に結びつきやすくなり、地域レベルの課題の解決につながる。

出席者の工夫 2

～毎回出席する参加メンバーの確保～

地域ケアや地域ケア会議に関する知見が積み重ねられ、会議がより効果的・効率的に運営されるようになるとともに、関係団体・機関の理解が進み、課題の解決に資することが期待される。

出席者の工夫 3

～毎回の出席者の考え方～

地域の課題を議論する推進会議では、より広範な地域の関係者の出席を求めるとことが考えられる。また、関係団体・機関が大きな組織である場合は地区の代表者レベルをメンバーとすることや実務者の参加を依頼することも考えられる。

ポイント

出席者の工夫

- ・ 個別地域ケア会議や、地域の専門職や関係者が把握している課題を、地域の誰と共有または、話し合うことが良いのかを考えるとよい。
また、それぞれの団体や機関ですぐに取り組むことが不可能でも、地域で起こっている課題を共有することで地域のネットワーク構築を進めていくきっかけとなる。
- ・ 各包括には地区担当制で市の職員がいるため、個別ケア会議や地域ケア推進会議の開催や、テーマ、出席者等について、相談を受け、庁内他課、外部組織への出席依頼などを協力する体制としている。

地域包括ケア推進会議（地域レベル会議）の工夫 2

松戸市地域ケア会議運営マニュアルより

地域の関係者同士の連携が十分ではない場合の実施方法の検討

推進会議に出席するメンバー同士の連携が十分ではなく、議論が活性化しない場合には、メンバー間の顔の見える関係を作っていく観点から、メンバー同士がお互いの活動内容を把握できるような場や手法を用いる必要がある。

議論の具体性を上げ、解決志向の議論としていくために、課題の議論のみならず、「自分ができること」、「自分たちができること」、「有効に活用できそうなのに、活用できていないこと(もの)」などを上げて議論していくことも有効な方策と考えられる。

例えば、地域での見守りについて、様々な団体が独自に活動している場合があるとの指摘がよくある。このように活動内容が重複していそうな場合には、推進会議の中で、地域の関係者同士がそれぞれの活動内容を報告し、役割分担・連携を図る機会を設けるとよい。地域包括支援センターは、必要に応じて関係者同士の活動内容の報告を議題に取り上げている。



テーマについての先進的な取組や好事例についての話題提供者を他圏域や市外等から招聘するなど、議論が活発化するような工夫も効果的。また、参加者に会議の報告と参加できなかった方への共有のためにお便りを作成する工夫をしている。

手法の例

- KJ法: アイディア等をカードに記述し、カードをグループごとにまとめて論点を整理する方法
- 地域の社会資源等のマッピング
- フィールドワーク: 圏域内の生活支援サービスや困難事例に関わる場所の見学に行く

地域包括ケア推進会議当日は、ファシリテーターを包括以外の専門職にもお願いして、皆で協力しながら会議は開催。

各地域包括ケア推進会議における論点

議題	①課題	②関係する個別事例	③地域での対応方針	④地域での対応状況 今後の方向性	⑤市レベルで期待すること
ゴミ出し・分別の支援について、困難を抱える高齢者に対して、それぞれの立場で、自分がやれそうなことはなにか	○ゴミ出し・分別について、困難を抱える高齢者に対して、それぞれの立場で、自分ができそうなことはないか	○認知症がある独居の方のお金の管理について。	○イラストで分かりやすいゴミ出し表を作成する。 ○ゴミ出しアプリを周知する。 ○集積所に残ったゴミは環境業務課に相談できることを周知する。	○イラストで分かりやすいゴミ出し表を作成する。 ○ゴミ出しアプリを周知する。 ○集積所に残ったゴミは環境業務課に相談できることを周知する。	○ゴミ出しの時間を見直す。 ○ゴミ焼却炉を新しくする。 ○ゴミの分別を少なくする。 ○高齢者にも使いやすいAI音声サービスを導入する。

令和5年度 家庭ごみ分別表

六条1～5丁目

可燃ごみ	リサイクルするプラスチック	その他プラスチック	不燃ごみ
月 水 金 毎週 生ごみ 再利用できない荷類 資源にならない紙類 心ごみ 木製品	木 毎週 プラスチック製品	土 毎週 コム類、古銭、古道具類 二輪車、自転車など 家電品、家具類など	火 毎週 燃やさないごみ 危険 有害ごみ

わからない時はここに連絡 ☎ 0120-264-057 松戸市家庭ごみ相談コールセンター

【令和5年度版】家庭ごみの分け方

ごみ分別及び曜日

①可燃ごみ

②不燃ごみ

③有害などのごみ

④資源ごみ

①可燃ごみ

②不燃ごみ

③有害などのごみ

④資源ごみ

令和5年度 資源ごみカレンダー

六条6～7丁目、六条1～9丁目、六条台番

ビン・缶類 飲食用

品目ごとに分けてください

紙類・布類

品目ごとに分けてください

わからない時はここに連絡 ☎ 0120-264-057 松戸市家庭ごみ相談コールセンター

ごみ	①可燃ごみ	①可燃ごみ
水・金	火・木・土	月・水・木
火	水	木

ごみ	②不燃ごみ	②不燃ごみ
などのごみ	③有害などのごみ	③有害などのごみ
④資源ごみ	④資源ごみ	④資源ごみ

紙類・布類	①と②は、交互に収集します。	①と②は、交互に収集します。
紙類・布類	紙類・布類	紙類・布類
ビン類・缶類	ビン類・缶類	ビン類・缶類

地域個別ケア会議における個別事例（主な課題別整理）

令和4年12月から5月実施分抜粋

No	地域関連			家族関連		本人関連				医療連携				
	見守り不在	地縁の欠如	その他	世帯の困難	その他	助けを求める力の欠如	認知症	金銭管理困難	その他	かかりつけ医不在	医療連携困難	病識欠如	その他疾病	
1		○		独居			○	○	警察保護			○		
2		○	県外在住の友人が多い	独居	身内は他県在住の甥のみ	○	疑い		もの屋敷		○		心疾患 膝関節症	
3		○			身寄り不在	○	○	○	警察保護			○	くも膜下出血	
4	○	○		○	夫妻とも知的障害	○		○			○	○	難聴	
5			災害避難時行動要支援者がどこにいるのか分からない		高齢者の親と障害者の子の世帯なので避難行動は難しい				災害避難行動時の支援を普段から近隣住民にお願いしておくことに心理的なハードルが高い					
6			災害避難時行動要支援者がどこにいるのか分からない	日中独居時の災害対応			○		体動困難					
7			災害避難時行動要支援者がどこにいるのか分からない	老々介護			○							
8	○					○			精神疾患	精神疾患		精神疾患		
9	○		ゴミ屋敷問題											
8	○			○		○	○	○	世帯の困難(独居、老々)、認知症、病識欠如、地縁の欠如が多い			○		
9		○		○			○	○				○		
10	○				夫が入院		○	○						

テーマ	(1)地域で起きている問題と課題		(2)推進会議で話し合われた地域での対応方針	(3)市レベルの課題		
	個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議		個別ケア会議 自立支援型個別ケア会議	推進会議	
1. 認知症	<p>認知症の普及啓発 ○地域住民の認知症の理解に差がある(個1・18・29) ○万引きや問題行動の背景に認知症があることが知られていない(個24) ○家族の認知症に対する理解が十分でない(個18・44・45・53)</p> <p>見守り・支援体制の不足 ○認知症により拒否があると地域での見守りが難しい(個22) ○毎日の安否確認や見守りが必要な方への支援の不足(個50) ○転居してきた認知症の方の支援(個30・38) ○徘徊による家族の負担が大きい(個46・53) ○認知症高齢者のボランティア活動の場がない。(個3)</p> <p>認知症の方の意思決定支援 ○介護者の高齢化等、入院等のライフイベントがあった際の意思決定の難しさ(個10・11・12・25・34・49) ○認知症高齢者がセルフネグレクトに陥りやすい(個19・30)</p>	<p>○地域住民等の認知症への理解、高齢者への接し方の周知が不十分な点について</p> <p>○家族関係や地域との関係が希薄な為、必要な情報が届かない事がある</p>	<p>実態把握</p> <p>○認知症の理解について住民や店舗、配達に関わる方、薬局などの実態把握。</p>	<p>○高齢者に対する正しい情報発信</p>	<p>○認知症を我が事として考えられるような定期的な周知活動 ○相談先周知に向けチャットボット活用などの新しい方法の検討 ○認知症等サポート体制や制度の紹介、問題の情報共有</p>	
			<p>普及啓発</p> <p>○認知症や相談先の周知を進める ○成年後見制度の普及啓発を図る ○認知症の高齢者や家族に対しては、個別に情報を伝える。</p>			<p>○認知症高齢者の徘徊を地域で見守る体制づくり。 ○認知症の進行具合に合わせて地域と専門職の協働を推進する ○徘徊高齢者への支援における警察との連携強化</p>
			<p>連携強化</p> <p>○障害事業所等に対しても、認知症の方の特性の理解を深め、連携強化や協働した支援体制の構築を図る。 ○店舗や配達業者等、民間事業所も含めた多様な見守りネットワークの構築を進める。</p>			<p>○認知症高齢者のボランティア活動の場がない。</p>
			<p>取組検討</p> <p>○認知症カフェ等を開催し認知症の方や家族の方が安心して過ごせる場所、認知症の方の理解を深める場を増やす。</p>			<p>○高齢者等見守り協定締結事業者を増やす。 ○認知症の方にも分かりやすいゴミ分別の周知</p>

テーマ別課題の整理 (令和4年12月～令和5年5月)

テーマ	地域包括ケア推進会議	地域個別ケア会議	自立支援型個別ケア会議
1.認知症	○	○	
2.介護予防	○	○	○
3.多分野・地域共生	○	○	
4.国際			
5.ペット	○	○	
6.生活支援	○	○	○
7.移動支援			○
8.見守り	○	○	
9.災害	○	○	
10.医療・介護連携		○	介護予防、生活支援に関するテーマは、どの会議でも事例や課題となっていた
11.権利擁護	○	○	
12.地域包括ケアシステム			

松戸市地域ケア会議 課題に対する方向性

地域包括ケア推進会議や2層ワーキングでの検討・取組の推奨テーマ

○地域共生社会の実現に向けた取組み

○フレイル・認知症などリスクを抱える方の早期発見・早期対応

- 各圏域での地域包括ケア推進会議や2層ワーキングについて、これらのテーマに沿った議題とし、地域ケア会議と2層ワーキングの連動を意識した取組みを行う。
- 検討・取組の結果を再び市地域ケア会議にて集約する。

推奨テーマ「フレイル・認知症などリスクを抱える方の早期発見・早期対応」

整理された課題	関連テーマ	既存の取組み	今後必要な取組み
<p>●認知症の理解 ○認知症に対する理解が十分でない(個18、44、45、53)</p> <p>●リスク状態の早期発見、早期対応に向けた取組み ○コロナ禍により、外出機会が減少。フレイル状態となる人が増加。(個47、自10) ○社会資源の不足、選択肢の拡大が必要(自1、8、9)</p> <p>●地域からの孤立 ○家族関係や地域との関係が希薄な為、必要な情報が届かない[推進:D地区] ○周囲との交流を望まない方、世帯への支援(個1、9、17、22、25、29、32、33)</p>	<p>1. 認知症</p> <p>2. 介護予防</p> <p>8. 見守り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GPS助成制度 ・高齢者の見守りシール ・緊急通報装置(介護保険課) ・認知症サポーター養成講座 ・市と民間事業者等との見守り協定 ・地域住民による見守り(民生委員、高支連、オレンジ協力員等) ・介護予防把握事業におけるアンケートの実施 ・フレイル予防事業でのハイリスクアプローチ ・元気応援くらぶ ・はつらつくらぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ○認知症を我が事として考えられるような定期的な周知活動 ○相談先周知に向けた新しい方法の検討 ○高齢者等見守り協定締結事業者を増やす。 ○住民主体の支援団体の育成 ○転入してきた高齢者に対して、地域活動や健康相談の場について周知、案内 ○地域の中で介護を受けている本人や介護者が、地域の人と交わる場・交流の機会の整備

当日の議論

認知症などによる問題行動、地域からの孤立などリスクを抱えた方の早期発見、早期対応のために必要な取組みについて議論した。

議論の結果

各機関の取組や好事例を共有し、早期に発見した人が抱え込まずに包括等につなぐことの再認識や、見守り協定の参加および拡大について共有。

推奨テーマ「地域共生社会の実現に向けた取組み」

整理された課題	関連テーマ	既存の取組み	今後必要な取組み
<p>障害福祉分野との連携、制度の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービスから介護保険サービスへケア移行する世帯への支援[推進:A地区、B地区] ・障害福祉分野との関りが希薄、連携不足 ・介護保険サービスと障害福祉サービスの併用について、専門職の理解が不十分 <p>多問題を抱える世帯への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症のある高齢者と軽度障害のある子の支援について[個10] ・高齢者支援から児童虐待疑いの覚知、世帯全体への支援について[個32] 	<p>3. 多分野・地域共生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・属性や世代を問わずに相談を受け止める包括的相談支援体制による連携[児童、障害、高齢、困窮] ・松戸市虐待防止条例による3虐待の連携、対応[児童、障害、高齢] ・「まつどDEつながるステーション」の創出(地域共生課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険と障害福祉分野の相互理解や顔の見える関係の構築[推進:A地区、B地区] ・共生型サービス制度の周知[推進:A地区] ・支援機関だけでなく、各施設や店舗との連携 ・学校等の児童関係機関との連携

当日の議論

他分野連携による適切なケア移行(65歳問題、在宅からケアの場が変更など)の支援として、ケア移行の現状や課題と、今後必要な取組みについて、情報の共有と、意見交換を行った。

議論の結果

施設から医療への移行の現状や、高齢者施設での障害のある方の理解の工夫等の情報を共有。事例検討一つ一つを積み上げながら信頼関係をつくっていくことも大切。

地域ケア会議運営マニュアルの作成

- 地域ケア会議において地域課題や個別事例をより効果的に解決していくためには、事務局である地域包括支援センターの議事運営スキルの向上を図ることが必要。
- このため、「松戸市地域ケア会議運営マニュアル」を作成し、包括支援センターにおける議事運営ノウハウや好事例の共有を図る。

構成と主な内容】

1. 地域ケア会議の意義と仕組み

- (1) 地域ケア会議の意義
- (2) 松戸市における地域ケア会議の仕組み

2. 地域個別ケア会議(以下、個別会議)

3. 自立支援型地域個別ケア会議(以下、自立支援型会議)

4. 地域包括ケア推進会議(以下、推進会議)

(1) 会議開催前の事前準備

- ・参加メンバー
- ・開催方法
- ・議題(テーマ)の選定
- ・資料の作成
- ・事前送付

(2) 会議の議事運営

- ・司会および時間
- ・情報管理
- ・傍聴・見学について

(3) 会議終了後の対応

- ・報告様式の市への提出等

5. 市地域ケア会議(以下、市ケア会議)

6. 会議共通の留意事項

(1) 会議開催前の事前準備

(2) 会議の議事運営

(3) 会議終了後の対応

- ・参加メンバーによる議論内容の共有
- ・記録の作成と報告様式の市への提出
- ・報告様式の入力時の注意点
- (4) その他
 - ・関係機関との連携による対応
 - ・オンラインの活用について個人情報の取り扱い
 - ・守秘義務
 - ・充実した会議運営と好事例の共有

7. 地域包括支援センターにおける評価との連動

8. 会議資料・報告様式

様式1. 地域個別ケア会議報告様式①

様式2. 地域個別ケア会議報告様式②

様式3. 地域包括ケア推進会議報告様式

様式4. 自立支援型個別ケア会議報告様式①

様式5. 自立支援型個別ケア会議報告様式②

参考資料他

好事例

1.各地域の現状と取組～社会と接点の乏しい方を支えるために～(A包括)

【効果的な取組】

○抽出した地域課題をもとに、社会的孤立の定義を共有したうえで会議を進めた。
○地域との接点の乏しい方を早期覚知するために、アンケート調査の対象や目的等への意見交換を行い、アンケート調査原案を作成。地域包括で役割分担を行い、集計データを分析したものを可視化した。○グループワークでは、できるだけ地域の実情を把握している方に参加を依頼した。

【結果・成果】

○アンケート調査データの可視化により、早期発見のチェック項目の抽出ヒントを得ることができた。
○自分達の住まいや職場のある身近な地域について各々の立場で語り合う場や地域情報を共有でき、会議後の交流が広がり、「地域のことは地域で考えよう」という意識の醸成、関心の高まりにつながった。○コンビニ・宅配業者で把握した情報が現場レベルの個人にとどまっている現状を受け、再議論を企画。必要な支援につながっていない高齢者を早期覚知できるようなチェックリストのたたき台を作成。コンビニや宅配業者、民間の配食サービスなどの協力を得て、地域での早期からの対策を講じられるしくみ作りを検討していくこととなった。

好事例

2.ゴミ出し・分別について困難を抱える高齢者に対して、地域でできること(B包括)

【効果的な取組】○地域ケア推進会議で出たアイデアを二層ワーキングで検討し、イラストで分かりやすい字別家庭ごみ分別表と資源ごみ回収日が一目でわかるカレンダーを作成。

【結果・成果】○二層ワーキングでゴミカレンダーを製作し、担当課の許可を得て、地域住民に配布したところ、家庭ごみの分別や資源ゴミの回収日がわかりやすいと好評を得た。民生委員の訪問のツールにもなっている。

成功の一例

- ・わかりやすいゴミカレンダーの作成
- ・個別ゴミ収集の対象者拡大充等
- ・不用品のマッチングするオープンチャット開設
- ・オレンジパトワーク
- ・高齢者見守り協定への参加機関拡充等

好事例・好取組からの横展開の実施状況について

横展開の評価項目	実施状況	内容
<p>2.総合相談支援業務 社会資源の運営支援を目的として、会議(オンライン含む)に出席した延べ件数。</p>	<p>全包括で実施</p>	<p>感染予防を考慮した開催方法や活動内容について検討。また、周知や地域住民との連絡調整、意見交換等を実施。</p>
<p>3.権利擁護 高齢者虐待防止のための、男性養護者支援を実施。</p>	<p>全包括で実施</p>	<p>男性養護者を対象とした事業を開催。(つどい、教室形式、情報提供など)</p>
<p>5.地域ケア会議関係業務 地域個別(自立支援型含む)ケア会議において写真・映像等を用いて、会議を開催。</p>	<p>14包括で実施</p>	<p>お薬手帳や血液データ等の医療情報、本人及び自宅の様子、福祉用具などの写真活用。また、避難訓練やつどいの様子を動画で撮影し、投影することでイメージしやすい環境を整備している。</p>
<p>9.松戸市指定事業 新しい生活様式を踏まえ実施した「介護予防教室・認知症予防教室・つどい等」のうち効果的な成果が得られた活動</p>	<p>全包括で実施</p>	<p>事業の開催場所や回数の見直しにより感染予防を考慮して実施。また、オンライン開催により、人数制限の緩和や介護者の移動負担の軽減することができた。</p>

市の地域ケア会議運営の工夫

【地域レベル会議】

- 地域での会議を2段階にし、個別事例の課題と地域の専門職・関係者が把握した課題等について、地域レベルの課題の解決を行う場を設けている。また、地域レベルの推進会議と二層ワーキングのどちらで検討を行うかは、参加者や地域の強みや特性に応じて選択できるようにしている。

【市の職員】

- 市の職員は地区担当制となっているため、地域の事情や、複数の個別事例から抽出された課題に合わせて、開催方法やテーマ等については相談しながら、会議を行う体制となっている。

【テーマや検討・取組の推奨テーマ】

- 個別ケア会議と地域ケア推進会議で議論するテーマは、これまでの実績で多かったものの中から選択できるようにしている。また、地域包括ケア推進会議や2層ワーキングでの検討・取組の推奨テーマ決め、全体として、ある程度の方向性をもって各会議が行えるような仕組みにしている。

【循環型ケア会議】

- 市のケア会議で検討されたことは、場合によっては、個別ケア会議、地域ケア推進会議にまた戻すなど循環型のケア会議を行っている。

【市レベル会議】

- 各委員には、テーマに合わせて、好事例を発言してもらい、他の機関が取り入れやすいように工夫している。以前に出ていた課題がその後各機関でどのように進んでいるのかについても発言いただいている。